

## コロナ禍でのオリンピック開催は国民の目にどのように映ったか

マーケティングサイエンスコンサルティング部 コンサルタント 川上 貴大

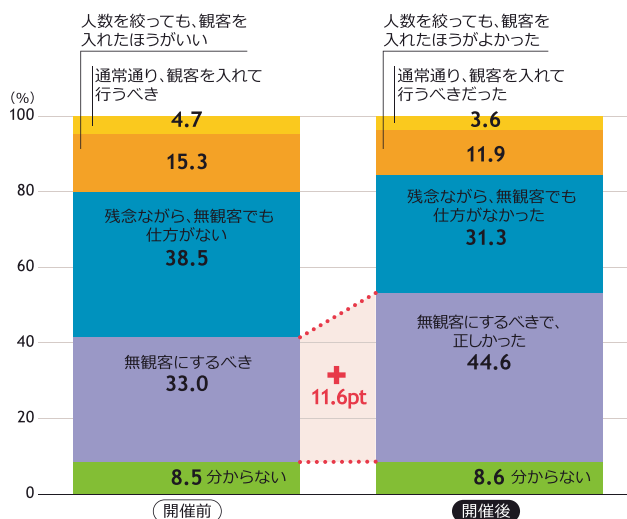
実に57年ぶりとなる日本国内でのオリンピックが8月8日に幕を閉じた。日本選手団は過去最多となる19競技で58個のメダルを獲得し華々しい活躍を遂げた。しかしながら、東京2020オリンピック競技大会は新型コロナウイルス感染拡大により史上初の無観客開催を強いられるなど、必ずしも順風満帆の開催とはいえなかつたであろう。そのような中で生活者は今大会に関してどのように感じているのか。NRIでは東京2020オリンピックに対する生活者の意識について全国調査を実施した。

図表1はオリンピックの無観客開催是非について開催前(7月24日)と開催後(8月8日)で比較したグラフである。オリンピック開催前では「無観客にするべきである」との回答が33.0%に対して、開催後では「無観客にするべきで、正しかった」との回答が44.6%と11.6ポイント上昇している。生活者はオリンピックの無観客開催について受け入れている一方で、別の設問では、現地での観戦意向について約4割の人が「現地で観戦したかった」と答えている。本大会においては、無観客でのオリンピック開催を是としつつも、本来であれば可能であったはずの現地での観戦を行いたかったとくずぶる生活者の内面が表れる結果となった。

また図表2は今後のオリンピック開催意向について表したグラフである。これを見ると全体の36.3%が「今後国内でオリンピックを開催してほしい」と回答しており、さまざまな問題が報じられたものの、「開催してほしい」を上回った。特に20代は41.2%と、若者ほど再び国内でオリンピックが開催されることを望んでいる。若年層はもともと現地観戦意向が高く、本大会の満足度が全体よりも低くなっていることから、オリンピックの盛り上がりを十分に体験できなかったと感じているのだろう。

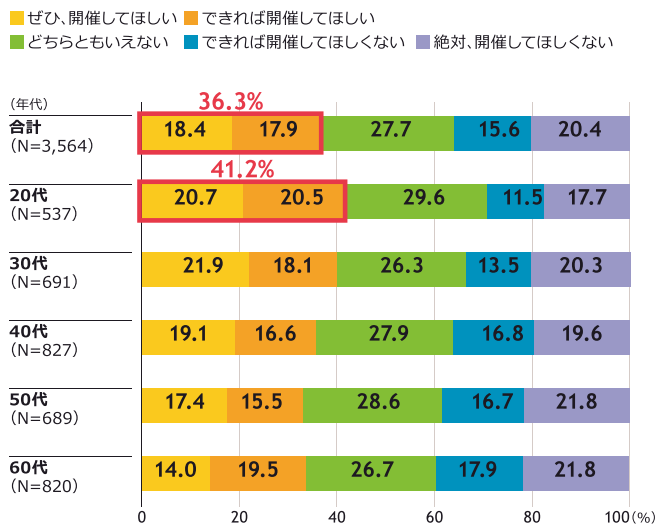
東京2020オリンピックの満足度に関しては「開催してよかった」と回答した人の割合が約4割となっており、その理由として「選手に共感した」や「明るく、元気な気分になれた」との回答が半数を超えている。先行きが見えないコロナ禍においてオリンピックが生活者に与えた希望と勇気は小さくないだろう。しかしながら開催すべきではなかった理由として、コロナウイルス感染拡大を除くと「予算がかかりすぎた」や「選手への暑さ対策」などが挙げられ、それらの諸問題を総括することが、2030年札幌など次のオリンピックへの国民理解につながるのではないかと。NRIでは東京2020オリンピックの成果について多角的な視点で考察を深めていきたい。

図表1 東京オリンピック競技大会における無観客開催是非



出所) 左図: NRI「東京2020オリンピック競技大会に関する独自調査(開催前)」(2021年7月24日)  
右図: NRI「東京2020オリンピック競技大会に関する独自調査(開催後)」(2021年8月8日)

図表2 国内における次回オリンピック開催意向



注) 数値(%)は四捨五入しているため、合計の数値(%)は必ずしも100%にならない  
出所) NRI「東京2020オリンピック競技大会に関する独自調査(開催後)」(2021年8月8日)